

NPO 法人 共楽館を考える集い

代表者	森 秀男
所在地	〒317-0056 茨城県日立市白銀町2-22-28
設立年月日	1993年2月19日
URL	http://www.net1.jway.ne.jp/kyorakukan/

【設立趣旨】

●共楽館（登録文化財）の復原・活用と産業遺産を活用したまちづくり
日立市は日立鉱山とその修理工場から発展した日立製作所を中心に発達した鉱工業のまちです。共楽館は日立鉱山の福利厚生施設として大正6（1917）年に建設された芝居小屋です。昭和42（1967）年、日立市に寄贈され武道館に改造したため、舞台や桟敷が撤去されてしまいました。平成5（1993）年に共楽館の復原・活用を目指して組織、平成17（2005）年度に法人化しました。日立市にはこれまでの発展を支えた多くの産業遺産が現存しています。これらの遺産を活用したまちづくりをめざして活動しています。



現在の共楽館

年には全国町並み保存連盟加盟。平成11（1999）年に国の有形文化財登録、全国町並み保存連盟幹事会を開催。翌12年（1998）年に第8回全国芝居小屋会議を共楽館で開催。そして平成17（2005）年度まで文化財活用の公演事業を続けました。



永六輔講演会（1993年）

【活動内容】

●イベントの開催

会の設立講演に永六輔さんを囲み「共楽館を考える集い」を開催しました。地元の婦人会のみなさんが炊き出しで協力、館内は熱気に包まれ、共楽館の復活に浸ることが出来ました。マルセ太郎の形態模写、弁士付の活動写真大会、講談、落語、一人芝居、フラメンコショー、ジャズコンサートなどの公演を続けましたが、平成17（2005）年に行われた耐震構造調査の結果、翌年から公演使用が禁止され、現在も続いています。

平成18（2006）年度からは来訪者への案内やガイドボランティアの養成講座、産業遺産に関する講演会やワークショップ、臨地研修などを行っています。また平成17（2005）年度より、大正初期から昭和10年代まで続いていた給料日に開かれた「会計市」を復活させるなど地域性を高めています。



2005年に復活した会計市

●史料集・報告書・会報などの発行

会の結成と同時に進められた「共楽館資料」の収集活動が行政の協力を得て、平成10（1998）年度に『史料集共楽館～地域と共に歩んだ五十年～』を刊行、平成15（2003）年度に10周年記念誌『共楽館をみつめて十年』を発刊しました。また会報『共楽館』を季刊発行し、共楽館の概要を綴ったパンフレットの版を重ねて作成しています。

【活動上の課題と今後の展望】

築92年の共楽館の傷みは、雨漏り、土台の腐蝕、外壁の損傷、漆喰壁の剥落などにより極限状態になっています。しかも「震度6の地震で倒壊の恐れあり」を理由に公演活動が禁止されるなど、本来の活動が出来ない状況に追い込まれています。平成18（2006）年4月に約半年間の募金活動で協力いただいた浄財を、日立市へ「共楽館修理費」として提出しました。

平成20（2008）年12月議会では新武道館建設の陳情が採決され、市も新たな武道館建設に前向きな姿勢を示しています。そして平成21（2009）年9月の定例市議会に日立武道館（共楽館）耐震工事費として地域活性化・経済危機対策臨時交付金などを活用して約4億円の補正予算案が提出されました。

共楽館の雨漏り等の工事が進捗すれば、腐蝕等による倒壊の恐れが克服され、建造物の保存が確保できます。その上で、「共楽館」の名称の復活、芝居小屋への復原の道筋が明らかにされることとなります。

【沿革】

●鉱工業都市日立の産業遺産

昭和の怪物といわれた久原房之助により明治38（1905）年に創業した日立鉱山は、瞬く間に日本の4大銅山の一つに数えられるようになりました。久原は日立に桃源郷を築く理念に「一山一家」をかけた、手厚い福利厚生策を行い、その一環として贅を懲らした芝居小屋を造りました。それが共楽館です。東京の歌舞伎座を参考に鉱山の技師による設計、施工は事業所の工作課があたりました。芝居小屋としては最初の椅子席の導入、中央に噴水を設置して納涼会、映画会・講演会・展覧会・大相撲の地方巡業などの会場としても使われました。歌舞伎・素人芝居など舞台を使つての公演も行われ、最盛期には4千人の入場者に溢れたとの記録もあります。戦後、映画の全盛期が過ぎると芝居小屋の役割を終え、武道館へ変身しました。新田次郎の小説「ある町の高い煙突」は日立鉱山の煙害克服の歴史を小説化したものです。町の人はこの煙突を「大煙突」といい、親しんでいます。日鉱記念館・小平記念館など「ものづくりの町」の産業遺産の豊かな町です。これらの遺産を後世に残すための保存運動を産業観光に結びつけての運動を展開しています。



日立鉱山の水力発電所（石岡第一発電所）めぐり

【活動目的】

●共楽館の保存運動から復原運動へ

大煙突が倒れた平成5（1993）年2月19日に奇しくも「共楽館を考える集い」が結成されました。日立の産業遺産であり、文化遺産である「共楽館」を保存し、復原する活動がはじまりました。この年に結成された全国芝居小屋会議に参加し、平成9（1997）



小唄勝太郎の舞台（1935年）